

日本精工株式会社 2023年3月期 第2四半期 IR決算説明会 質疑応答要旨

◆修正後の通期予想について

【Q1】

修正後の見込みについて為替影響を除き、減収要因を教えてください。また、その他セグメントでマイナスしているが、その内訳は。

【A1】

産業機械事業の3つのセグメントのうち、E&E は自動車向け小型モータも多く、生産台数減少の影響が大きく、厳しい状況です。家電も景況の悪化で物量が落ちているため、今回の見通しにも反映しています。一方、ファンモータ、IoT 関連、極小などミニアチュアと呼ばれるゾーンは比較的好調です。

産業機械軸受、精機製品は当初の計画に近い状況で、工作機械、半導体製造装置は足元での減速感がありますが、現時点では高い受注水準であり、下期の生産は同様の水準で継続する見込みです。

自動車事業では自動車生産台数の見通しに対して若干の減が自動車軸受と自動車部品に影響しています。中国を中心に前半に足踏みが見られ、後半はより厳しくなると予想し、見通しに反映しました。自動車部品の中の AT 製品が当初の計画に対し、マイナスしています。その他のセグメントでのマイナスは鋼球事業とBKVで客先のロシア・ウクライナ影響により減収となりました。

◆インフレ・価格転嫁について

【Q2】

インフレの価格転嫁について、タイムリーに価格転嫁できるのか、今後の見通しを教えてください。

【A2】

従来よりも短いタイムラグで価格転嫁を進めています。今期に発生したコスト上昇分につきましては、今期中に取り戻すことを目標に取り組んでおり、通期予想に入れていますが、ただし、先期の売価アップで追いついていない部分があり、取り戻せていない状況です。鋼材以外のインフレ分、例えば輸送費や電気代等は新たな交渉となるため、難しい部分もありますが、継続して交渉することが重要と考えます。今後のインフレ状況では更に追加値上げが必要になるかもしれません。

【Q3】

産業機械事業は価格転嫁のリードタイムが短いと理解しているが、上期の価格転嫁は産業機械事業が中心か。

【A3】

価格転嫁の規模としては両事業同じ程度ですが、自動車の方が実質若干遅れています。下期に向けてしっかり売価反映できるよう交渉していきます。

**【Q4】**

エネルギーコストなどの価格転嫁は今までにない交渉なので時間がかかるのではないかと危惧している。来期にずれ込む可能性も高いのではないか。

**【A4】**

難しい交渉ではありますが、今期中にしっかり価格転嫁の交渉をやりきりたいと思います。

**◆中国の市況およびサプライチェーンについて**

**【Q5】**

対上期で中国での工作機械やその他の分野の下期の見通しは。

**【A5】**

落ちる見通しを入れていますが。風力は若干上向きですが、工作機械の設備関連、半導体製造装置関連で高止まり、E&E の電機関連などでも市場に影響が出てきています。ゼロコロナ対策継続の可能性を含め、来期を見通しても楽観視できないと考えます。工作機械のオーダーインテイクは少し弱い状況です。

**【Q6】**

中国での調達のお考え、ゼロコロナ政策も含めて読みにくいという話があったが、生産拠点、購買戦略について変化はあるのか。

**【A6】**

基本的に地産地消で対応しており、大きな変化はありません。一部中国から輸出しているものがありました。客先の承認をとり、移管したものもあります。基本路線を踏襲した形で中国拠点の自立性を高めていきます。グローバル拠点が中国にあってリスクを想定して変更しなければいけないというような状況ではありません。材料については、一部、中国から購入しているものもあるので第2のソース、第3のソースというBCPを策定しています。

**◆自動車事業について**

**【Q7】**

ティッセングループ社との交渉で何かアップデートあるか。

**【A7】**

双方ともこの事業の意義や大きな戦略であるということを確認できていますので、ご心配いただく必要はないと思っています。トップ同士のビジョンの共有はしっかりできています。最終的なスキームがどうなるのかは、本日はご報告することができません。

**【Q8】**

上期自動車生産台数が3%増に対して、自動車事業は実質1%減ですが、下期および来期以降の見通しを教えてください。

**【A8】**

満遍なく同一のシェアで入っているわけではないので、シェアの高い日系メーカーが体制を整えつつあるという点ではポジティブにとらえています。将来についてはこれから立ち上がっていくEVにどれだけ搭載されていくのかが重要で、台数の伸びにあわせた成長ができると見えています。

**【Q9】**

**自動車事業の採算性について、3年先にしっかりと利益が確保できる状況と理解して良いか。**

**【A9】**

目標に対してしっかりと利益を確保できるような受注状況です。立ち上がりの段階では、鋼材、それ以外で、当初の見積もりよりもコストが高くなっている可能性があります、交渉をしていくので、悲観的に考えていません。

**◆財務他**

**【Q10】**

**今年度上半期のキャッシュフローがマイナス、通期のキャッシュフローのイメージを教えてください。**

**【A10】**

5月にお話した期末の着地の予定の通りで、下期に向けてフリーキャッシュフローのマイナスはポジティブになると考えています。

**【Q11】**

**配当利回りの観点では個人投資家には魅力的だが、機関投資家にとっては、PBRが0.6に低迷するひとつの要因として買収防衛策もあるように思われる。撤廃すべきでは。6月の株主総会で会長、社長の賛成率が低い状況下で買収防衛策を継続すべきかどのような議論がされているか。**

**【A11】**

反対票が多かった背景として、ROEが一定の率を3年間連続で下回っていること、また、海外の機関投資家の方々の反対票は、政策保有株式の純資産に対する比率を問題視していると認識しています。買収防衛策を持っていることに対する反対はそれらとの組み合わせであることを承知しており、重要視しています。答えを出していくべき課題として認識しています。

以上